

消防部

令和7年度 重点目標

- | | |
|---|------------------------|
| 1 | 市民への防火対策の推進及び応急手当の普及推進 |
| 2 | 消防水利の充実・強化と適正な維持管理 |
| 3 | 常備消防力の充実・強化及び広域連携訓練の実施 |

令和7年度 重点目標管理シート

重点目標		市民への防火対策の推進及び応急手当の普及推進		部局名	消防部	優先順位	1 位	
総合計画における 位置付け		第2編 自然・生活環境 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第7節 地域防災力の向上と災害対応能力の強化		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」に おける位置付け	5 DXやGX等の革新的技術でSDGsを推進、人と自然が調和した活力あるまちをつくる ●防災減災に最先端技術を駆使し、防災士、消防団と連携し安心安全で強靱な上田市 を築く			
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラ ムにおける位置付け								
現況・ 課題	令和6年中の上田市における火災件数は28件で、前年の43件と比較し15件減少しました。このうち建物火災は17件で、前年の22件と比べ5件減少しました。上田市で発生した火災の半数以上が建物火災であることから、引き続き建 物火災の減少を推進するため、住宅及び事業所における防火・防災対策の啓発に努めます。また、全国の火災による死者は建物火災が大半を占め、その多くが高齢者であることから、高齢者を中心とした住宅防火対策を積極的に推 進するとともに、工場等の事業所に対しては定期的に立入検査を行い、施設の適正な維持管理及び防火・防災対策の意識の高揚を促進します。出火原因については、「たき火」「火入れ」などの屋外焼却が上位を占め、消火に大き な困難を伴う林野火災の原因となりうることを踏まえ、屋外焼却実施前の消防署への届出時、屋外焼却実施者への注意喚起や消火の準備などの指導が必要です。応急手当の普及推進については、傷病者の近くにいる住民が応急手当 を行う可能性が高いため、継続的に応急手当の普及推進に努めます。							
目的・ 効果	住宅及び事業所等への防火・防災対策の啓発を図るため、防火講習や各種消防訓練、立入検査を実施し火災予防の意識の高揚を図るとともに、住宅火災に ついては、住宅用火災警報器の維持管理の指導を実施することにより、高齢者を中心とした防火に関する指導を重点的に行うことにより、火災による死傷者 や火災発生件数の減少を図り、火災から市民の安全を確保します。屋外焼却実施者に対し、「たき火」「火入れ」を原因とする火災の危険性や消防署への届 出や消火の準備などの必要性を指導することで火災予防を推進します。 応急手当につきましては、感染対策を含め正しい知識、技術を身につけることにより、傷病者の救命率及び予後の向上が期待できます。なお、知識及び技 術を深めるため、目標人数の50%以上を普通・上級救命講習の受講とします。				該当する SDGsの目標			
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見 直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
①	○ 住宅及び事業所の防火・防災対策の推進 （1）高齢者を中心とした住宅防火対策 （2）防火講習、各種訓練の指導 （3）事業所への立入検査の実施 （4）広報誌等の活用による周知	3月	（1）防火訪問等：350件 （2）自治会、事業所等の防火講習等 ：120回 （3）立入検査：900件 （4）防火広報：12回					
②	○ 屋外焼却に対する火災予防の推進 屋外焼却実施者への指導 （1）屋外焼却実施前の指導 （2）屋外焼却実施中の直接指導	3月	屋外焼却実施者への指導 （1）実施前の指導 3,800回 （2）実施中の直接指導 200回					
③	○ 市民に対する応急手当の普及推進 毎月1回の定期開催（上田地域広域連合）の他、 各団体からの依頼による講習会の実施	3月	普通救命講習、上級救命講習及び救命 入門コース受講者数:2,200人 （知識及び技術を深めるため、目標人 数の50%以上を普通・上級救命講習の 受講とする。）					
④								
⑤								
特記 事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題				

令和7年度 重点目標管理シート

重点目標		消防水利の充実・強化と適正な維持管理		部局名	消防部		優先順位	2 位
総合計画における位置付け		第2編 自然・生活環境 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第7節 地域防災力の向上と災害対応能力の強化		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	5 DXやGX等の革新的技術でSDGsを推進、人と自然が調和した活力あるまちをつくる ●防災減災に最先端技術を駆使し、防災士、消防団と連携し安全安心で強靱な上田市を築く			
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け								
現況・課題	防火水槽及び消火栓等の消防水利は、火災を消火するために必要不可欠な施設であり、現在当市には防火水槽が878基設置され、そのうち「消防水利の基準」に適合する40㎡以上の防火水槽は419基あり、防火水槽全体の約48%となっています。さらに、基準に適合する防火水槽のうち、耐震性防火水槽は135基で、基準に該当する防火水槽の約32%に当たります。このことから、巨大地震発生時でも高い確率で消火用水の確保が期待できる耐震性防火水槽を計画的に設置するとともに、老朽化が懸念される既存防火水槽の更新を行うことで、大規模災害時の消防水利や、避難者の生活用水を確保し、震災による大規模火災や水害等に備えるため、消防水利の充実と強化を図る必要があります。また、消火栓は現在4,736基設置されておりますが、当市の消防水利の充足率（基準水利で充足されている地域）は約51%であることから、今後も消防水利の不足している地域や、新たに住宅が建設された地域などへ計画的に設置するとともに、上下水道局と連携し、古い水道管の敷設替えにあわせて消火栓を更新し、防火水槽同様に充実・強化を図る必要があります。なお、既存の消火栓については、火災発生時に正常に使用できるよう、調査し、適正な維持管理に努める必要があります。							
目的・効果	耐震性防火水槽の整備は、地震による断水時においても高い確率で消火用水が確保できることから、最も信頼できる消防水利であり、災害に強いまちづくりに寄与します。 消火栓の整備については、火災発生時の近隣住民による初期消火により、被害の拡大防止が期待できるとともに、水利の不足する地域へ整備することで、火災による被害の軽減が図られます。			該当するSDGsの目標	3 すべての人に健康と福祉を 6 安全な水とトイレを世界中に 11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナーシップで目標を達成しよう			
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
①	○ 耐震性防火水槽の設置 上田地域（矢沢、下郷） 丸子地域（辰ノ口） 真田地域（入軽井沢）	3月	4基完成					
②	○ 消火栓の新設 上田地域（上田、常磐城） 真田地域（傍陽）	3月	3基完成					
③	○ 消火栓修繕 消火栓修繕15基	3月	15基修繕完成					
④								
⑤								
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題				

令和7年度 重点目標管理シート

重点目標		常備消防力の充実・強化及び広域連携訓練の実施			部局名	消防部		優先順位	3 位
総合計画における 位置付け		第2編 自然・生活環境 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第7節 地域防災力の向上と災害対応能力の強化			上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」に おける位置付け	5 DXやGX等の革新的技術でSDGsを推進、人と自然が調和した活力あるまちをつくる ●防災減災に最先端技術を駆使し、防災士、消防団と連携し安心安全で強靱な上田市を築く			
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け									
現況・ 課題	頻発化・激甚化及び複雑化する災害の発生や、高齢化、環境温度の変化等の社会環境の変化に伴い救急需要が増加するなど、消防を取り巻く環境は大きく変化しています。このような状況の中にあって、市民の安全・安心を確保していくためには、消防施設を適切に維持管理するとともに、消防車両を計画的に更新整備し、時代に即した消防力を確保し続けていく必要があります。 また、各種災害に対しの確に対応していくためには、実災害を想定した訓練や過去の災害を検証し災害対応力の強化を図る必要があります。特に、大規模災害発生時には、各機関からの応援を受け対応する必要があることから、広域連携訓練に参加し、関係機関相互の連携強化に努めるとともに受援体制の充実強化を図る必要があります。								
目的・ 効果	第二次上田市総合計画 後期基本計画（後期まちづくり計画）に基づき、中長期的視野をもって時代に即した消防力の検討と諸課題への対応や、増加する救急需要対策を進めることで、将来に向け持続可能な住民の安全・安心の基盤を築きます。 また、消防車両を計画的に更新し、安全性の向上及び消防装備を強化するとともに各関係機関との連携訓練を計画的に実施し消防力の強化を図ります。				該当する SDGsの目標	3 すべての人に健康と福祉を  11 住み続けられるまちづくりを  13 気候変動に具体的な対策を  16 平和と公正をすべての人に  17 パートナーシップで目標を達成しよう 			
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
①	○ 時代に即した消防力に関する検討と諸課題への対応 (1) 消防庁舎改修及び非常用電源設備の整備 (2) 高機能消防指令装置の更新整備 (3) 救急需要増加への対応	3月 3月 3月	(1) 上田東北消防署の庁舎改修及び非常用電源設備設置 (2) 高機能消防指令装置全面更新 (3) 救急出動体制の見直し等						
②	○ 消防車両等資機材整備 (1) 高規格救急自動車（南部署）	3月	(1) 高規格救急自動車の整備（南部署）						
③	○ 広域連携訓練等の実施 (1) 広域大規模訓練 (2) 関係機関との合同訓練 (3) その他の広域内訓練 (4) 救急救命士合同訓練	3月 3月 3月 3月	(1) 5回 (2) 20回 (3) 60回 (4) 6回						
④									
⑤									
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題					